

Topic 1

◇今春入試合格体験記 第3弾 合格者喜びの声

橋本 拓実さん

■合格大学：芝浦工業大学 工学部 土木工学科

■学校名：県立与野高校

■校舎名：大宮指扇校



● 合格を手にしたの感想

私が第1志望に合格出来たのは日頃から地道に努力をし続けた結果だと思います。私は高校1年生の後半くらいから将来について真剣に考え始めました。最初は、学びたいものがはっきりと決まっていませんでしたが、日頃の勉強に真面目に取り組んでいるうちに、学びの楽しさを知り、やってみたいと思える事も出てきました。そして、その分野が学べる大学も見つける事ができ、日々の努力の結果、第1志望の大学に合格したのでとても良かったです。

● 俊英館に入塾して良かったところは？

俊英館には中学2年生の時から通っていて、先生達が一人一人に丁寧に教えてくれたおかげで第1志望の高校に入学することができました。高校入学後の最初のうちは数学などでつまづいてしまい、成績はあまり良くありませんでしたが、分からない問題を先生に質問すると快く受けてくださり、分かりやすく教えてくれたので、どんどん理解が深まり、学校で「成績優良者」になることができました。

● 後輩へのアドバイス

受験勉強への取り組みはやはり、3年生になってからではなく、1・2年生のうちからやっておいた方が、絶対に後々楽だと思います。3年生から始めるのでは、はっきり言って時間が足りません。なので、1・2年生のうち、入試の応用問題などをいきなりやるのではなく、日頃から単語や数学などの公式などを確認したりして、基礎の問題を完璧だと思えるくらいまでやる事が大事だと思います。

学校生活では、当たり前ですが、遅刻などをしないで生活習慣を正しくして過ごす事が大事だと思います。そして、高校の行事は楽しい事だらけです。普段は真面目に授業を受け、行事の時は全力で楽しんだりメリハリをつければ、成績も自然と上がっていき、学校の思い出もたくさん作れます。勉強する時は勉強、遊ぶ時は遊ぶとけじめをつけて過ごした方が良いです。

成績を上げるために、私は寝る前にざっとですが、予習をしていました。予習をしてから授業に臨めば予習の段階で分からない事を授業で意識して聞くようになり、理解度も定着度も上がると思います。また、先生が黒板に書かず口で言った事でも、自分が大事だと思った事はノートに自分の言葉でまとめていて、それも定着度が上がる良い方法だと思っています。定期テストは学校の先生が作るもので、授業をよく聞けば、良い成績が取れると思います。ぜひ、みなさんも早いうちから勉強をして、第1志望に合格するように頑張ってください。



向井 寛人さん

■合格大学：群馬大学 理工学部 化学・生物化学科

■学校名：県立所沢高校

■校舎名：南大塚校



● 合格を手にしたの感想

自分は群馬大学に志望校を絞っていたので、受験できるチャンスは全て利用し、それでも合格できなければ浪人するつもりで勉強していました。なので、入試が終わって、合格発表までの日々は、合否が気になり、いろいろなことが手につきませんでした。先生から合格を告げられた時は、手の震えが止まらないぐらい嬉しかったです。

● 将来の夢や目標は？

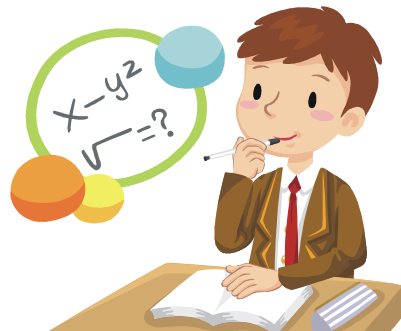
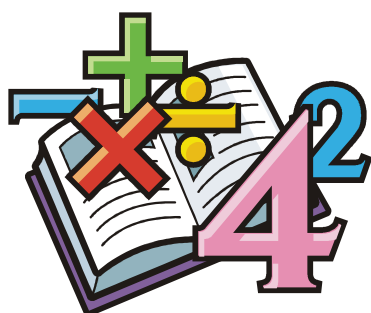
とても大きな夢なのですが、未来に名を残せるような化学者になることです。自分は子供の頃、よく親とスライム作りや、結晶作りをして遊んでいた影響もあって、化学に対してとても興味がありました。そして中学・高校と学んでいくうちに化学にはまだ誰も知らない世界が広がっていることを感じ、そこを追求していきたいと思うようになりました。

● 大学・学部を選んだきっかけは？

少人数制の授業に憧れていた点や学費の面から、最初の時点で関東の国立大学に決めていました。その中でも群馬大学は理系の分野に力を入れている大学の一つであり、科学を全ての角度から専門的に捉えていく点に心を惹かれました。また、理系専門キャンパスもあり、実験の設備も他の大学よりも圧倒的に整っていました。

● 後輩へのアドバイス

まず、理系を目指しているのならぜひ国立大学を目指して下さい。学費の違いはもちろん、授業の質や、実験の量も私立大学に比べても優れています。そして、国立大学を目指すのならば、ぜひ推薦入試に挑戦して下さい。倍率も大学によりますが、大体 G-MARCH レベルの大学の一般入試と同じくらいです。それに筆記の試験においても、1教科から3教科程度です。そして、推薦入試に挑戦するならもちろんですが、学校の授業をきちんと受けて、良い成績を取って下さい。自分は野球部に所属していたため、家庭学習の時間があまり確保できませんでした。なので、自分は家ではあまり予習はしていませんでした。その代わりに、移動中の電車の中で教科書を読み、一回の授業で覚えられるように集中して授業に取り組んでいました。家では、その日の復習に力を入れていました。復習は学校の問題集を主にやっていました。そして、難しそうな問題や、テストに出そうな問題にチェックをつけて、テスト前には問題集全て解くのではなく、あらかじめチェックをつけた問題を重点的に解き直しをしました。また、テスト前に自分の苦手をしっかりと把握しておくのも重要です。



4月になり新学期が始まります。だれもがフレッシュな気持ちで新しい学年をスタートさせることと思います。この時期に（特に高1の皆さんから）よく質問されることに「学校の予習の仕方は？」というものがあります。学校によって、教科担当の先生によって、指示内容がまちまちであったり、指導に熱心な先生が自らの担当教科の勉強を強く勧めるなど、悩ましい問題も潜んでいます。

すべての科目について、予習も復習も行うことが理想ですが、現実的には難しいでしょう。全教科について、予習も復習もしなくてはいけないとあせらなくても大丈夫！効率よく、全体的な成績を上げるためには、**教科の特性をとらえて、教科ごとに予習・復習の重点を変える**ことが得策です。

◇定期テスト前の勉強だけで良い科目 = 社会(現代社会・地理など), 現代文

知識を詰め込むタイプの科目は、予習は要りません。定期テスト前に集中して暗記を行いましょう。課題プリントがある場合は、それだけはしっかり行いましょう。定期テスト前だけだと暗記が追いつかないという不安がある人は「授業前の休み時間に前回の授業内容を、ノートを見ながら思い出して暗記する」のが良いでしょう。これらの科目は、授業ノートのとり方がポイントです。定期テスト前に復習しやすいノートになるよう、工夫してまとめましょう（東大に合格する生徒のノートは美しいそうです）。

◇復習中心の勉強で良い科目 = 数学, 理科(物理・化学)

問題を解くことが中心の科目は、復習中心で大丈夫です。授業で理解したことを問題演習に活かして「実際に問題が解けるかどうか？」がポイントになります。授業を受けた後に、学校の問題集をどんどん解きましょう。問題を解いた分だけ、成績が上がると考えてください。予習しないで授業に臨むと全く理解できないという科目であれば予習もしましょう。予習で大事なものは公式の「暗記」ではなく、公式の「理解」です。この公式はどういうことを意味しているのか、どのようにその公式が導かれるのかを「考えること」が予習です。

数学は問題を解くことが中心の科目なので、その意味では復習中心でよいのですが、現実的には「予習せずに授業に臨むと全く理解できない」可能性が大きいので、予習にも十分な時間を割くことをお勧めします。

◇絶対予習が必要な科目 = 英語(文法・読解), 古文, 漢文

辞書を使用する科目は絶対予習が必要です。もしこれらの科目の授業に、予習をしないで臨んだら、理解度・知識の定着度において、予習をして臨んだときと雲泥の差がつきます。予習を欠かさず行いましょう（ただし、私立理系の一般受験しか考えていないという人は、古文・漢文の予習はしなくても良いでしょう）。予習ノートは授業で書き込むことを前提にスペースを多めにとってください。また、予習ノートに単語・熟語の暗記スペースを作るとテスト勉強のときに役立ちます。

【例】英文読解の予習ノートであれば、左ページの左端に分からない単語を書くスペースをとり、右ページの右端にその単語の意味を書くスペースをとると「単語帳」のできあがりです。

中学時代に優秀だった生徒が大学受験に失敗するケースのほとんどが、高1時代の「英文法」をおろそかにした人です。**高3になったときに英語が苦手な人は、その克服に膨大な時間を費やさなければなりません。**逆に、高1で「英文法」をきちんとマスターしておくと、高2、高3と本当に楽ができますよ。

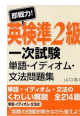
1 高3「英検準2級」レベル 低水準 文科省調査

文部科学省は2月2日、全国の国公立の中3生と高3生を対象にした、英語の「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能に関する2015年度の調査結果を公表した。調査は中3年約6万人、高3年約9万人を抽出して実施。

初めて調査した中3は、「書く」以外で国が卒業時の目標に掲げる「英検3級程度」に届かない層が約7~8割を占めた。「書く」は英検3級程度が約4割と比較的高い一方、0点が1割強とばらつきが見られた。

14年度に続き2回目の調査の高3年では、国が高校卒業時の目標とする「英検準2級程度」(A2)の割合が、「読む」は29.9%(前年度比6.4%増)、「聞く」24.2%(同3.9%増)、「書く」17.2%(同6.5%増)と、前年度より改善したが、依然として低水準に止まっている。「話す」は9.8%で前年度(9.5%)から横ばいだった。

中高生とも「話す」の得点が高い生徒は、低い生徒と比べて「授業で英語による話し合いを取り入れている」と答えた割合が高く、授業内容と得点の相関関係がみられた。高校生の英語力がやや改善した理由について、文科省の担当者は「4技能を意識した授業の改善が進んだ結果ではないか」と指摘。中学生に関しては「どこにつまずきがあるのか詳細に分析したい」としている。



2 地方私大 相次ぎ公立化 経営難を「救済」

若者の都市部への流出を食い止めようと、定員割れで経営難に陥った地方の私立大学を、地元の自治体が公立大学に法人化する動きが各地で起きている。私大より学費は下がり、志願者は大幅に増えるという。

文科省によると、これまでに計5私大が公立法人化された。このほか、新潟産業大(新潟県柏崎市)、長野大(長野県上田市)、旭川大(北海道旭川市)、諏訪東京理科大(長野県茅野市)などが自治体に公立化を要望している。

こうした動きに批判的な声もある。約410大学が加盟する「日本私立大学協会」は「公立化して志願者が増えるのは学費が安くなるから。安易に公立大学を増やせば、努力している周辺の私立大の経営を圧迫する。国の補助が国公立大に偏っている現状や、公立大の存在意義を問う時にきている」と指摘している。

3 初の東大推薦入試 学力も志望動機も見るAO型

東京大学が、学力試験だけでは測れない優れた才能などを持つ学生を求めて、2016年度入試で初めて実施した推薦入試の合格者が2月10日、発表された。全10学部で計100人程度の募集枠に対して合格者は8割弱の計77人だった。どのような受験生が合格したのか、国内最高峰の大学が推薦入試を導入した意義や効果はどうだったのか。

初の東大推薦入試は、各高校男女1人ずつの推薦枠が設けられ、合計173人が出願した。高校時代の活動実績や志望動機などの報告、小論文などを提示する書類審査の1次選考を通過した149人を対象に、昨年12月に面接などの2次選考を行って、1月のセンター試験の成績と併せて評価した。合格者77人中、男子は48人、女子29人だった。科学コンテストの入賞実績など、求める水準が高く、10学部のうち8学部では合格者が募集人数を下回った。

AO・推薦入試指導の専門塾「AO義塾」(東京・代々木)の齋木塾長は「センター試験の結果も加えた、学力と志望動機の双方を評価するAO型入試だった」と振り返る。様々な分野での日本の地盤沈下が指摘される中、「海外に出て行って、日本人にしかできないことを実行していくという意欲や気概を持った生徒たちが合格している。まさに募集要項で述べられている通りの生徒たちだった。東大は、世界史に名前を残すような原石の発掘を目指しているのでは」と分析する。



奨学金を返還できないとどうになってしまうのか？

ここ数年で、日本学生支援機構の奨学金の返還が滞っている人が急増し、社会問題となっている。もし将来、返せなくなった場合、どうなるかを説明しておこう。

まず、同機構に連絡せずに、返還が3か月以上滞ると、個人情報信用情報機関に伝えられ、最悪の場合、経済的な社会的信用がなくなり、各種クレジットカードの使用ができなくなったり、各種ローンが組めなくなったりする可能性がある。さらに、同機構が延滞者に対して訴訟を起こすケースも増えている。

こうした事態を少しでも回避できるよう、同機構では2012年度から、第一種の利用者で、卒業後に返還が厳しい経済状況にある人を対象に、一定の収入を得られない期間は返還を待つという「所得連動返還型無利子奨学金」制度を設けている。ただし、第二種の利用者には適用されないので、注意が必要である。

★日本学生支援機構(2015年度入学生)

第一種・第二種の借りられる額と返還額など(48ヶ月借りた場合)

第一種奨学金 (利息なし)	月々借りられる額 (円)	借りた総額 (円)	月々の返還額 (円)	返還する回数 (年)
国公立 自宅	45,000	2,160,000	12,857	168(14)
自宅外	51,000	2,448,000	13,600	180(15)
私立 自宅	54,000	2,592,000	14,400	180(15)
自宅外	64,000	3,072,000	14,222	216(18)
上記に共通	30,000	1,440,000	9,230	156(13)

第二種奨学金 (利息あり)	月々借りられる額 (円)	借りた総額 (円)	月々の返還額 (円)	返還する回数 (年)
	30,000	1,761,917	11,293	156(13)
	50,000	3,018,568	16,769	180(15)
	80,000	5,167,586	21,531	240(20)
	100,000	6,459,510	26,914	240(20)
	120,000	7,751,445	32,297	240(20)

月額5万円の奨学金(第二種)を4年間、
受けたとしたら

総額で約300万円もの借金を背負うことに！
卒業後、返すのに15年かかる！
終わる頃には30代半ばに！

ユニークな奨学金 入学前に返還不要の奨学金を予約できる大学が増加！

各大学ではここ数年で、優秀な学生を確保するために、独自に給付型の「入学前予約型奨学金制度」を積極的に導入している。2015年度から青山学院大などが導入したこの制度の特徴は、受験する前に、入学試験に合格したら、入学後にこの奨学金を利用を申請するというものである。

申請した後、保護者の年収など諸条件について審査があり、通過の通知が大学から来れば、あとはがんばって入試に合格し、入学後に所定の手続きを行うことで、一括で数十万円といった金額が支給されたり、授業料が減額・免除されたりする。給付型なので返す必要もない。

これまでの給付型・減免型の奨学金制度だと、指定された入試の成績優秀者が対象で、募集も数人程度の「狭き門」であることが多かった。しかし、最近の「入学前予約型奨学金制度」は募集人数が比較的多く(青山学院大の場合は350名)、基本的に合格しさえすればよく、受験前に奨学金がもらえるかどうかも確定しているので、入学前後のマネープランが立てやすいメリットもある。第1志望の大学に、この制度があれば、ぜひトライしてみよう。

このタイプの奨学金制度を導入している大学は、私立大学では首都圏や京阪神といった、大都市圏の規模の大きな大学が多い。首都圏の大学では、対象となる学生の出身地を「首都圏の1都3県以外」と指定するケースが目立つが、これは全国から広く入学者を集めたいという目的による。また、国公立大学でも導入するところが出てきている。なお2016年度からは、専修大・関西大が「入学前予約型奨学金制度」を導入する予定である。